

講義要綱

Syllabus

2023

28 期生 1 年次

長崎県央看護学校 専門課程

はじめに

講義要綱(シラバス)とは、授業に関する基本的な情報をまとめた「授業概要の説明書」です。各年度のはじめに学生のみなさんに配布し、学習を進める際の手がかりとして活用されるよう編集されています。科目概要と到達目標、授業方法・授業計画に始まり、教科書や参考文献など、より理解を深めるための学習ができるように工夫されています。

また、成績評価の方法や履修上の留意点など、学習の評価と直結する内容も盛り込まれています。授業に出席する前には、各科目のシラバスを必ず読み込んで当日に備えるようにしてください。

それぞれの授業科目には、その科目の学修に必要と考えられる時間数を基準にして「単位」が定められています。授業、予習や準備、復習や課題を達成する時間などを総合して45時間となるとき、これを1単位とすることを標準としています。授業科目の単位数は授業を受けるだけでなく、予習や復習等が必要であることを前提に定められていることを銘記しておきましょう。

目次

教育課程の基本概念	P1～2
教育理念・教育目的・教育目標	P3～4
教育課程	P5～6
講義要綱(シラバス)の見方	P7～8
授業科目と評価区分及び学年別単位数・講師一覧	P9～10
基礎分野	P11～17
専門基礎分野	P18～27
専門分野	P28～44
基礎看護学	P28～32
地域・在宅看護論	P 33～35
成人看護学	P36～38
老年看護学	P39～40
精神看護学	P41～42

教育課程の基本概念

カリキュラムを構築する基本概念を、「看護」と「看護師育成」の2つの視点から明らかにした。看護の基本概念は、看護の主要概念である「人間」「環境・社会」「健康」「看護」、看護師育成の基本となる概念を、「学習」「教育」と捉えた。

本校の教育課程の基本概念は、この6つの枠組みで構成する。

教育課程の基本概念	
人間	<p>人間は、唯一無二の存在であり、個別的・社会的存在である。人間は、生物体であり、環境との相互作用を持ち、誕生から死まで、絶えず、成長・発達・変化している。</p> <p>人間は、身体的・精神的・社会的存在としての生活統合体であり、多様な価値観を持ち、個別の生活様式を持つ。統合体としての人間は、変化や刺激に対して統合機制*¹を働かせて対応し、心身一体として存在している。この統合機制の働きの結果として反応や行動が起きる。</p> <p>人間は、様々なニーズを充足するために行動し生活している。人間は、自らの責任において意思決定し、自己実現へ向かう存在である。</p> <p>人間は、病気に対処する回復力をもっており、回復に適した安全な環境を用意すれば、力の及ぶ限り、自分で回復することができる。</p>
環境・社会	<p>環境とは、人間を取り巻くすべてであり、人間も環境の一部である。環境は、その人の統合機制を活性化させる刺激であり、健康状態に影響を与える。環境には、外的環境、内的環境があり、人間の生活に直接的・間接的に影響する。</p> <p>外的環境は、物理的・化学的・生物学的環境及び人的・社会的環境があり、これらは相互に影響しあう。内的環境とは、体内環境を指す。</p> <p>社会は、環境の一部である。社会は構成する人間の相互作用によって変化する。社会の中で人間がよりよく生きるために、法、政治、経済、文化、教育、医療、福祉などの機能がある。社会は、個人・家族・地域から構成され、社会の最小単位は家族である。家族は、多様である。</p>
健康	<p>健康の概念は、主観的・個別的なものであり、時代とともに変化する。健康は、すべての人の基本的な権利であり、人間の幸福の一条件である。</p> <p>WHOは、健康とは単に疾病や障がいがないというだけでなく、身体的にも、精神的にも、社会的にも完全な良い状態と定義している。健康とは、身体的・精神的・社会的統合の状態及び過程であり、統合とは諸機能が滞りなく働いている状態である。その人のその時の健康状態は、最適な健康レベルから死のレベルにいたる連続した過程の中で位置付けられる。</p> <p>人間は、自らの健康を維持するために、健康をコントロールし改善することができるようなプロセスを獲得し実践していく。健康は一人ひとりの人生の目標を達成するための基盤である。</p>

看護	<p>看護は、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象とし、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通して最期まで、その人らしく生を全うできるよう保健医療福祉を提供する。</p> <p>看護は、患者の個別性を尊重し、自立を支援する営みである。看護活動は、看護に必要な情報収集、解釈、問題の明確化、計画立案、実施、評価を構造とし、実施される。実施には、科学的根拠(探究するという言葉の意味が含まれる)に基づいた技術と、人間尊重の思想を基盤とした態度が必要であり、対象者と看護者との関係の中で成立し展開される。</p> <p>看護職は、免許によって看護を実践する権限を与えられた者である。看護職は、社会的な責務を果たすため、看護の実践にあたっては、「看護職の倫理綱領」を行動指針とする。看護職は、多様な場において、多職種と連携・協働し対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造しうる能力を持つ。</p>
学習	<p>学習とは、学習者自身が経験を通して自己を変化させ成長していく過程である。経験の結果として生じるのは、永続的な行動の変容である。経験を通じて知識や技能、環境に適応する力、自分で課題を見つけ自ら学び主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力を身につける。主体的に学ぶとは、外発的・内発的動機づけによって、学生自身が興味をもって積極的に取り組み、学習活動を自ら振り返り意味づけ、身についた資質や能力を自覚し、共有することをいう。</p> <p>学習とは他者の考え方、見方を受け止め、尊重し、対話的に学び、相互に高め合うことである。対話的に学ぶとは、学生同士、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えることで、自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気づくことが難しい気づきを得たりしながら、考えを広げたり深めたりすることである。</p> <p>学習の目的は、社会に適応するために必要な知識、技能を身につけ、人間性を養うことにある。学習者は社会と連携・協働しながら、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルと必要な資質を学ぶ。</p>
教育	<p>教育とは、教育を受ける権利を有する学習者の行動に価値ある変化をもたらすプロセスであり、生涯にわたり学び続ける力を育てるものである。教育は学習者と教育者の信頼関係を基盤に行なわれ、学習者と教育者、学習者同士は、共に学習し合っていく関係にあり、互いに成長していく。</p> <p>教育は、学校の教育目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、教育目標の達成を目指し、意図的計画的に学習者に働きかけるものである。教育活動は、個人の内在する資質、学習者の自己成長・発達の潜在能力を最大限に引き出すように学習方法や学習環境を整え、個々の学生の状況をふまえて行う。</p> <p>教育により学習者が身につけるものは、人間的成長であり、生きる力である。生きる力とは、知識・技術だけでなく、豊かな人間性や真理を求める態度、様々な心理的・社会的な資源を活用して複雑な課題に対応することができる力であり、伝統や多様な文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度や公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参加し、発展に寄与する態度のことを指す。</p>

* 1 統合機制：身体的精神的・社会的統合機制のことをいう。身体的統合には、さまざまな要因によってたえず変化する内部環境をコントロールし、身体の諸機能を全体的に調整しようとするメカニズムが働く。精神的・社会的統合にはコーピング機制が働く。コーピングは、人がその人のやり方でストレスや脅威を緩和・軽減・除去しようとする試みの過程をいう。

教育理念

本校における看護教育は、社会の変化・情勢に対応し、保健・医療・福祉の向上を目指して社会に貢献できる看護実践者を育成することである。この考えに基づき、人々から信頼を得られる看護の専門的な知識・技術・態度を養い、生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性を育成することを本校の責務とする。教育の基本は、学生が主体的に学び、自己成長できるよう支援していくことである。

教育目的

看護師となるために必要な豊かな人間性を養い、専門的知識・技術・態度を修得すると共に保健・医療・福祉システムにおけるチームの一員として社会に貢献できる看護師を育成する。

教育目標

1. 生命の尊厳と人間尊重の理念に基づき、豊かな感性と調和の取れた人間性を養う。
2. 社会の変化に対応し得る基礎的能力を養う。
3. 人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
4. 保健医療福祉システムと他職種との役割を理解し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々への看護を提供するための基礎的能力を養う。
5. 専門職業人として最新知識・技術を自ら学び続け、看護師として自己成長できる基礎的能力を養う。

アドミッション・ポリシー（本校が求める入学者像）

本校では教育の理念に基づき、協同の精神を柱に保健・医療・福祉の向上を目指し、社会に貢献できる看護実践者の育成を目指します。そのため、入学生には以下のような人材を求めます。

1. 誠実でやさしさ、思いやりのある人
2. 周囲の人と協力し合い、自分の役割を果たせる人
3. 准看護師として一定レベルの学力を有し、より専門的知識・技術・態度の修得に向けて努力できる人
4. 看護師として社会に貢献するという明確な目的意識を持っている人
5. 生活・健康の自己管理ができ、責任ある行動がとれる人

ディプロマ・ポリシー（期待される卒業生像）

所定の課程を修め、68単位の単位修得条件を満たした上で、次のような能力を備えた者に卒業を認定し、専門士（医療専門課程）称号を授与します。

人間力

1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。

思考力

2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断力を身につけている。

行動力

3. 主体性をもちながら、他へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。
4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。

創造力

5. 看護師としての使命感を持ち、時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。
6. 変化を恐れず、新しい問題へ対応するために創意工夫できる力を身につけている。

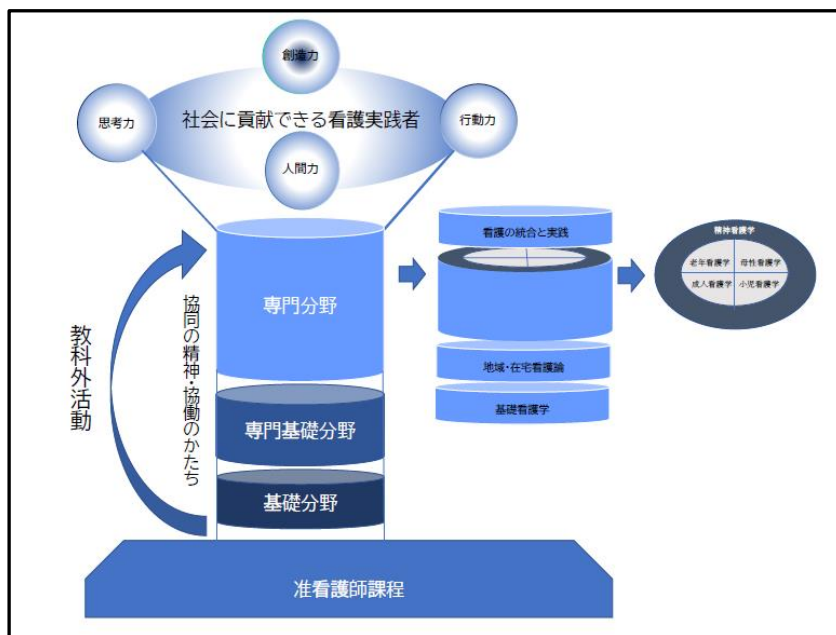
カリキュラム・ポリシー（教育の8つの柱）

教育理念とディプロマ・ポリシーに示された到達目標を達成するため、8つの教育の柱を定め、カリキュラムを編成します。

1. 人間尊重に基づいた温かで誠実な心を育み、生命の尊さと価値観の多様性を認識し、人間を統合された存在として幅広く理解する基礎的能力を育む。
2. コミュニケーション能力を養い、共感能力を身につける。
3. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎的能力を養う。
4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。
5. 情報通信技術（ICT）を活用する能力を身につけ、仲間と共に学び合い、能動的で自律的な学修態度を養う。

6. 保健医療福祉における看護の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら問題解決できる実践能力を養う。
7. 看護について探求心を持ち、継続して学ぶ姿勢を養う。
8. 学修成果の評価は、シラバスに明示された到達目標と成果を示す小テスト・単位認定試験・レポートや授業への参加態度、実習評価などを含め、多様な方法で総合的に行う。また、学修の取り組みについて学生自身が自己評価を行い、課題解決に向けて取り組む姿勢も評価する。

カリキュラム・ポリシーを可視化し、教育課程の有機的つながりを明らかにするために、教育課程構造図を策定します。



教育課程構造図説明文

本校の教育理念である「社会に貢献できる看護実践者の育成」のために、教育目標の到達を目指し、卒業時には、人間力・思考力・行動力及び創造力の4つの力が身についている看護師として社会に巣立つことができるよう教育課程を編成する。本校の教育課程は「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」の3分野で構築する。

基礎分野は、「科学的思考の基盤」、「人間と生活・社会の理解」について学ぶ。人間と社会を幅広く理解し、科学的思考力及びコミュニケーション能力、情報通信技術 (ICT) を活用する能力を高め、感性を磨き、幅広い考え方から判断と行動を促す内容とし、専門基礎分野及び専門分野を学ぶ土台とする。

専門基礎分野は、「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」について学ぶ。看護学の観点から人体を系統的に理解し、健康・疾病・障がいに関する観察力、判断力を身につけ、臨床判断能力を養う。人々が生涯を通じ健康や障がいの状態に応じて社会資源を有効に活用できるよう支援するために必要な知識と基礎的能力を養う。

専門分野は、「基礎看護学」「地域・在宅看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の統合と実践」について学ぶ。「基礎看護学」では、全ての看

看護学に共通の基礎的理論や技術を学び、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的理論や基礎的技術、看護の展開方法等を学ぶ。「地域・在宅看護論」では、すべてのライフサイクルの特性を踏まえ、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、地域における様々な場での看護の基礎を学ぶ。また地域における看護の役割や多職種との協働や連携について学ぶ。

人間の誕生から死に至る人の一生に関わる看護学として「母性看護学」「小児看護学」「成人看護学」「老年看護学」「精神看護学」の5つの看護学を構築する。人間の成長発達は、加齢に伴う変化過程であり、常に連続体であるため、ライフサイクル各期の特徴と健康上の課題を明らかにし、多様なニーズや場の特徴を踏まえながら、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を育成する。「精神看護学」は、あらゆる発達段階に関わる心の健康と健康問題について学ぶ。「看護の統合と実践」は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学修した知識・技術を統合し、卒業後、臨床現場に適応できることを目的に、臨床の実務に近い看護内容や方法を学ぶ分野とする。

知識や技術の統合を図り、看護の受け手との関係形成やチーム医療において必要な対人関係能力や倫理観を養うとともに、看護専門職として自己を省察する能力を身につけるための臨地実習は、2～3年次に配置する。また3年間にわたり、看護師国家試験受験資格に必要な科目を系統的に配置する。教育方法は、准看護師課程からの積み上げ教育を意識し、協同の精神を醸成し協働のかたちの基盤となるよう工夫する。

これらの教育内容と共に、教科外活動を含む教育の過程における様々な経験の積み重ねにより、豊かな人間性を育み、社会に貢献するための思考力、行動力を備え、時代のニーズに応える創造力をもつ看護実践者として自己成長できる基盤を養う。

1. 講義要綱(シラバス)の見方

1) 授業科目と評価区分及び学年別単位数・講師一覧

本年度の本校で学ぶ全ての「授業科目」「単位数」「時間数」「授業科目の配当学年」「担当する講師及び担当時間」、「試験の担当講師」等について記載しています。授業科目の担当講師の確認や試験内容、授業時間の確認などに利用して下さい。授業科目の中には、1つの授業科目を複数の講師で担当する科目や1つの授業科目の単位認定を複数の試験で行う授業科目もあります。また、単位認定試験の受験資格も授業科目により異なるものもあります。特に「担当講師の試験組み合わせ」の項目の*マークのついている授業科目は、履修条件に注意が必要です。各授業科目の講義要綱(シラバス)と照らし合わせて、確実に確認しておきましょう。また、履修規程の「Ⅱ. 学科単位修得」の項と関連させて参照してください。

2) 各授業科目のシラバスの解説

各項目には、次の内容が、書かれています。学習を進める際の参考にして下さい。

① 科目名

授業科目の名称です。

② 担当講師

今年度、科目を担当する講師名です。

③ 単位数 (時間数)

授業科目の単位数と () 内には、授業科目の総時間数が書かれています。複数の担当講師の場合、各々の時間を明記しています。

④ 配当年次

配当年次とは、授業が行われる学年を表しています。その学年にならないとその授業科目を受けることはできません。但し、自分の年次(学年)以下で開講している授業科目については、履修することができます。

⑤ 科目の概要

この授業科目で学ぶ内容の概要です。当該科目の領域や社会における有用性を説明すると共に、既習内容との関係を配慮して、関連科目との体系的・構造的関係を記載しています。

⑥到達目標

受講後に期待される姿です。理解して欲しい知識や修得して欲しい技術、身につけて欲しい態度や能力などを具体的に記載しています。

⑦授業方法

講義や演習など授業の形態です。

⑧授業計画

毎回の授業テーマや授業内容が記載されています。

⑨成績評価の方法

単位認定のためにどのように成績を評価するのかを記載しています。評価の具体的な方法と配点基準です。単位認定試験や課題の提出状況、出席状況、授業態度等、評価方法は、各授業科目により異なります。

⑩履修上の注意

この授業科目を履修する上で必要となる注意事項です。

⑪一言アドバイス

学習する上での留意点や発展的に学習を進めるにあたってのポイントが記載されています。

⑫教科書

この授業科目で使用する教科書です。

⑬参考文献

学習を深める際に参考にするとよい文献です。

授業科目と評価区分及び学年別単位数・講師一覧（令和5年度 28期生1年次）

教育内容		授業科目	単位	時間	1年	評価区分	1試験時間	担当時間	講師名	
基礎分野	人間的・科学的思考の基礎 人間と生活・社会の理解	情報科学	1	30		1試験	30	30		
		運動生理学	1	15		1試験	15	15		
		論理的思考と表現	1	15	1	1試験	15	15	篠原駿一郎	
		哲学	1	30	1	1試験	30	30	内村公義	
		心理学	1	30	1	1試験	30	30	柳田多聞	
		人間関係論	1	30		1試験	30	30		
		家族社会学	1	15	1	1試験	15	15	銭坪玲子	
		医療英語	1	30	1	1試験	30	30	南川啓一	
専門基礎分野	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進	形態機能学Ⅰ	生命と恒常性・血液・内分泌	1	30	1	1試験	10	* 宇賀達也	
			生殖器					4	* 中野真由美	
			骨・筋肉系、呼吸・腎・泌尿器					16	* 西山美奈子	
		形態機能学Ⅱ	消化器・循環器・脳・神経・感覚器(体温)	1	30	1	1試験	30	30	* 高橋美智子
		臨床生化学と栄養	生化学	1	30	1	1試験*	20	20	後藤信治
			栄養学					10	10	* 河辺千鶴子
		疾病と治療論Ⅰ	呼吸器	1	30	1	1試験*	14	14	* 福島喜代康
			消化器					12	12	* 福田浩敏
			消化器(手術療法)					4	4	* 宮本俊吾
		疾病と治療論Ⅱ	血液造血器	1	30	1	1試験*	10	10	* 谷口広明
			循環器					16	16	* 高原晶
		疾病と治療論Ⅲ	脳神経	1	30	1	1試験*	16	6	* 谷岡浩二
									10	* 森勝春
			運動器					14	14	* 河川翔平
		疾病と治療論Ⅳ	腎・泌尿器	1	30	1	1試験*	14	14	* 権藤雄一郎
			女性生殖器					8	8	* 宮本力
			乳腺					2	2	* 犬塚周
			自己免疫					6	6	* 小無田明美
		疾病と治療論Ⅴ	内分泌・代謝	1	30		1試験*	12		* 宇賀達也
			耳鼻咽喉					6		* 坪井雅彦
			眼					6		
			皮膚					6		
		薬理学	1	30	1	1試験	30	30	* 池田理恵	
		微生物学	1	30	1	1試験	15	30	* 森内良三	
		保健医療論	1	15	1	1試験*	15	9	* 宮本峻光	
		社会福祉	1	30		1試験	30		* 徳永陽子	
		関係法規	1	15		1試験	15			
		公衆衛生学	1	15		1試験	15			
基礎看護学	基礎看護学	看護学概論	1	30	1	1試験	30	10	* 圓能寺貞子	
								20	* 田中伸子	
		共通基本技術	1	45	1	1試験	45	42	* 山口真由美	
								3	* 竹村恵	
		日常生活援助技術	1	30	1	1試験	30	30	* 西山美奈子	
								4	* 大平英輝	
		診療補助技術	1	45	1	1試験	45	3	* 花田星児	
								38	* 平晴奈	
		臨床看護総論	1	30		1試験	30			
		看護研究	1	30		1試験	30			
専門分野	地域・在宅看護論	地域で暮らす人と健康	1	30	1	1試験	30	10	佐藤快信	
								14	* 田中伸子	
								6	* 中村伊織	
		地域・在宅看護概論	1	30	1	1試験	30	24	* 隈上貴子	
								6	* 吉田知之	
		地域・在宅看護援助論	1	30	1	1試験	30			
在宅療養者の状態別看護	1	30		1試験	30					
多職種連携活動論	1	30		1試験	30					

専門分野	成人看護学	成人看護学総論	1	30	1	1試験	30	30	* 吉野千春	
		成人臨床看護の実際Ⅰ	循環器障害	1	30	1	1試験*	16	8	* 松川絵里
			消化・吸収障害						8	* 大家晴香
			血液・造血器障害						6	* 宮本望
			呼吸器障害						8	* 松村圭一郎
		成人臨床看護の実際Ⅱ	内分泌・代謝障害	1	30		1試験*	16		
			腎機能障害							
			泌尿器機能障害							
	運動器障害									
			中枢神経障害			1試験*	14			
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	1	1試験	30	30	* 中村加代子	
		老年看護援助論	1	30		1試験	30	30		
		老年期に特有な障害と看護	1	30		1試験	30	4 26		
	小児看護学	小児看護学概論	1	30		1試験	30	30		
		小児臨床看護総論	1	30		1試験	30	14		
								13		
			3							
	小児臨床看護の実際	1	30		1試験	30	8			
							2			
							2			
			18							
	母性看護学	母性看護学概論	1	30		1試験	30	30		
		周産期の正常な経過とハイリスク	1	30		1試験	30	14 16		
		周産期にある人の看護	1	30		1試験	30	10 20		
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	1	1試験	30	30	* 山口奈津子	
		心の健康のための治療と看護	1	30		1試験	30	16		
								4		
			10							
看護の統合と実践	看護管理	1	15		1試験	15	10			
							2			
							2			
		R		1						
医療安全	1	30		1試験	30	30				
災害看護と国際協力	1	30		1試験	30	2				
						28				
臨床看護の実際	1	45		1試験	45	33				
						12				

※ 試験及び評定に関して、「履修規程」をよく参照すること。

* 実務経験のある教員

※ *は、「履修規程」Ⅱ. 学科単位修得【受験資格】及び【成績及び評価について】の項を参照すること。

※「R」はレポート提出がある科目。詳細はシラバスで確認すること。

基礎分野

科目名	論理的思考と表現	担当講師	篠原 駿一郎
単位数 (時間数)	1 (15)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	さまざまなケースについて、論理と倫理の違いを理解し、意見を発表する。		
到達目標	医療者は、各ケースについて、客観的な事実を確認するとともに、そのケースに関わる患者や家族が多様な価値観を持っていることを理解しなければならない。 またその前提として、患者の発言や主張を簡潔に理解することが必要である。 授業では、上記二点についての力を養うことを目標とする。		
CP・DP との関連	CP3. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎的能力を養う。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	生殖医療① DVD「知りたくて」「見えない終止符」 生殖補助医療について考える。	講義
	2	生殖医療② DVD「普通の子」「私たちの選択」 出生前診断、優生思想について考える。	講義
	3	病気治療① DVD「あなたの赤ちゃん」 障害児の生存権と親権について考える。	講義
	4	病気治療② DVD「花のプレゼント」 患者の自己決定権について考える。	講義
	5	病気治療③ DVD「家計図」 幸福追求権とパターンリズムについて考える。 DVD「本当のこと」 病気の告知、インフォームド・コンセントについて考える。	講義
	6	終末期医療① DVD「老人の友」「ある家族の事情」 QOL と SOL について考える。	講義
	7	終末期医療② DVD「残された選択」「白い遺言状」「生きてゆく理由」 安楽死について考える。	講義
	8	単位認定試験	試験
成績評価の方法	単位認定試験＋授業への参加度		
履修上の アドバイス	上記に挙げた DVD の中から授業の進行状況に応じて適宜選択して鑑賞します。自分で考え積極的に意見を述べてください。		
テキスト	使用しません。必要なプリントを配布します。		
参考文献	篠原駿一郎著「生命科学のユートピア」(2015年、NHK出版)		

科目名	哲学	担当講師	内村 公義
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	一般的な「哲学概論」ではなく、「看護哲学」に焦点を絞り、「看護とは何か」を問い直す。看護現場で直面する諸問題を取り上げ、直接・間接に病む人と対話することにより、ケアの意味を考える。		
到達目標	1. 「哲学する」姿勢を身につける。 a. 未知の事柄に対して知的好奇心を抱く。 b. 自分の無知を知る。 c. 自明の前提を疑う。 d. 「答えのない問い」から逃げない。 2. 「臨床哲学」の精神を看護現場に活かせるようになる。 病む人から学び、苦しむ者と共に考え、患者と「普通の人と人との関係」を結べるようになる。		
CP・DP との関連	CP1. 人間尊重に基づいた温かで誠実な心をはぐくみ、生命の尊さと価値観の多様性を認識し、人間を統合された存在として幅広く理解する基礎的能力を育む。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	なぜ哲学を学ぶのか。	講義
	2	なんじ自身を知れ。	講義
	3	テキスト講読「袈裟から白衣へ」。	講義
	4	トータルケアとは。	講義
	5	質問に答える。	講義
	6	テキスト講読「順調です」。	講義
	7	臨床哲学的人間観—ホモ・パティエンス。	講義
	8	当事者から学ぶ。	講義
	9	テキスト講読「オンリーワン」。	講義
	10	人は死ぬのになぜ生きるのか。	講義
	11	人間の尊厳を支えるケア。	講義
	12	テキスト講読「言葉のメスに抗って」。	講義
	13	コミュニケーションとしての医療。	講義
	14	「聴くこと」のちから。	講義
15	まとめ / レポート試験	講義・試験	
成績評価の方法	レポート試験 レポートの課題は第1回授業で提示するので、それを念頭に置いて受講すること。		
履修上の アドバイス	学習した内容を知識として丸暗記する科目ではない。自分の頭で考え、それをつたなくても自分の言葉で表現することを心がけてほしい。学習の場は教室ではなく看護の現場であることも心に留めてほしい。哲学(フィロソフィア)とは「知を愛する」こと、つまり「知りたがる」ことです。固くならず、好奇心を旺盛にして授業に出てください。		
テキスト	鷺田清一 <弱さ>のちから—ホスピタブルな光景 講談社		
参考文献	授業の中で随時紹介する。		

科目名	心理学	担当講師	柳田 多聞
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	医療従事者と患者・家族との間には人間味のある相互に信頼し合える人間関係を成立することが求められている。望ましい信頼関係は、患者の心理の理解と医療従事者の自己理解・自己統制によって成立する。そこで本講では、より良い人間関係の基盤を形成することを目的に、人間の心や行動、自己及び他者の心理を学び、人間関係形成のための対象理解及びコミュニケーション技術の向上にむけた学習を行う。		
到達目標	人の行動や心情に対して、素朴な印象や根拠のない俗説で判断する態度を排除し、科学的な分析を重視しつつ、行動や心情の背景を深く探究しようと努める態度を持つことを到達目標とする。		
CP・DP との関連	CP1.人間尊重に基づいた温かで誠実な心を育み、生命の尊さと価値観の多様性を認識し、人間を統合された存在として幅広く理解する基礎的能力を育む。 CP2.コミュニケーション能力を養い、共感能力を身につける。 DP3.主体性をもちながら、他へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	感覚(情報の選択的取り入れ)	講義
	2	知覚(情報の生態学的解釈)	講義
	3	学習・行動(行動の変容)	講義
	4	注意・記憶(情報の活用)	講義
	5	思考・言語(情報の創造)	講義
	6	動機・欲求(行動を推し進める力)	講義
	7	感情(体験を価値づける力)	講義
	8	社会・集団(自己と他者の関わり)	講義
	9	乳児期の発達(基本的信頼と能動的活動)	講義
	10	幼児期の発達(自発性と自律性)	講義
	11	学童期の発達(自我と劣等感)	講義
	12	青年期の発達(自己の模索)	講義
	13	成年期の発達(パートナーシップ)	講義
	14	壮年期の発達(自己実現)	講義
15	老年期の発達(老いの受容) / 単位認定試験	講義・試験	
成績評価の方法	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	人間の行動や心情に対して、ふだんから積極的な関心・問題意識を持ち、授業に取り上げた話題を各自の日常生活に当てはめて考えるようにしましょう。映像や図を多用しますから、注意深く、観察する態度を養ってください。		
テキスト	樫村正美・野村俊明(編著)「医療系のための心理学」講談社		
参考文献	授業内で適宜紹介		

科目名	家族社会学	担当講師	錢坪 玲子
単位数 (時間数)	1 (15)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	それぞれが抱いている家族イメージの確認からスタートし、誰もがわかっているつもり「家族」について、本当に「家族」のことがわかっているのか、をまず考察する。そして、私たちが当たり前と受け止めている家族像は、明治以降に形成された近代家族にすぎないこと、歴史的・社会的に見れば、近代的な家族形態は普遍的なものではないことを学ぶ。さらには、各種資料やデータを参照しながら、現代社会の変動に伴う家族の変化、現代家族と外部環境との相互関連、現代社会において排除されている特定の家族、個人を生きづらくしている家族の実相等について理解し、家族の新たな方途や新しい家族の在り方についても考察を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族社会学の基礎的知識や視点を身につける。 2. 現代家族をめぐる諸問題とその背景等について理解する。 3. 家族を相対化し、多様な家族を支援するための知識を獲得する。 		
CP・DPとの関連	<p>CP1.人間尊重に基づいた温かで誠実な心を育み、生命の尊さと価値観の多様性を認識し、人間を統合された存在として幅広く理解する基礎的能力を育む。</p> <p>DP6.変化を恐れず、新しい問題へ対応するために創意工夫できる力を身につけている。</p>		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	家族とは何か	講義
	2	家族のイメージと実像	講義
	3	歴史の中の家族	講義
	4	近代から現代家族へ	講義
	5	子どもと家族	講義
	6	夫と妻、父と母	講義
	7	現在の家族制度	講義
	8	単位認定試験	試験
成績評価の方法	授業態度(30%)、単位認定試験(70%)		
履修上のアドバイス	<p>私たちにとって身近な存在であることから、家族とは何か、ということ考えたこともない人が多いかもしれませんが、実際には多様な家族が存在します。自分の生きてきた家族が多様な家族の一形態にすぎないという事実を前提とし、多様な現実を正しく理解することによってはじめて適切な支援を提供することができると思います。この授業を通して、自分の「家族」像を相対化する視点をぜひ獲得してください。予習・復習をすること。</p>		
テキスト	「よくわかる現代家族 第2版」 ミネルヴァ書房		
参考文献	<p>フィリップ・アリス 「<子供>の誕生」 みすず書房 1980</p> <p>西野理子他編 「よくわかる家族社会学」 ミネルヴァ書房 2019</p>		

科目名	医療英語	担当講師	南川 啓一
単位数 (時間数)	1 (30)	配当年次	1
科目の概要	これまでに修得した基礎的な英語を復習するとともに、文の構造を理解し、言語の背景にある文化・価値観・考え方に与える影響を考える。専門用語はできるだけその語源などを考え応用が利くように講義する。なお、途上国での医療や看護について映像で紹介する。		
到達目標	医療現場で必要とされる英語によるコミュニケーションができるように基礎的な英語を学び、専門用語を修得する。言語を異にすることで成立しない相互理解の原因を考え、言語によるコミュニケーションを補完する手段を考える。		
CP・DPとの関連	CP2.コミュニケーション能力を養い、共感能力を身につける。 DP2.批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探求し、適切な判断力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	言語と文化	講義
	2	Be 動詞の文/体の名称	講義
	3	一般動詞の文/臓器名	講義
	4	途上国での医療支援活動の実際①	講義
	5	疑問詞を使った疑問文①/過去の文	講義
	6	途上国での医療支援活動の実際②	講義
	7	未来の文・前置詞/診療科名	講義
	8	途上国での医療支援活動の実際③	講義
	9	疑問詞を使った疑問文②/専門医名	講義
	10	途上国での医療支援活動の実際④	講義
	11	助動詞を使った文/	講義
	12	不定詞の文	講義
	13	受動態の文	講義
	14	複文	講義
15	まとめ/単位認定試験	講義・試験	
成績評価の方法	小テスト(10%) 単位認定試験(90%)		
履修上のアドバイス	暗記した英語は使えない！中学校・高校での英語学習は中学生・高校生用。もう一度大人の感覚で見直したい。		
テキスト	開講時に配付する		
参考文献	必要に応じて紹介する。		

專門基礎分野

科目名	形態機能学 I	担当講師	* 宇賀達也 : 10 時間 * 中野真由美 : 4 時間 * 西山美奈子 : 16 時間
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	日常生活を営む正常な人体の生理機能を理解するために,①各臓器の解剖・生理,②各臓器の機能低下がもたらす生体全体への影響について学ぶ。 本科目では細胞および組織と器官,血液・造血器系,呼吸器系,腎・泌尿器系,生殖器系,骨・筋肉系,内分泌系について学ぶ。		
到達目標	1. 臓器の解剖・生理を理解する。 2. 疾病により各臓器の機能低下がもたらす生体全体への影響が分かる。 3. 生命維持と内部環境の恒常性について理解する。 4. 人体の活動を統合する働きを理解する。 5. 人という種を保存する働きについて理解する。		
CP・DP との関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し,科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ,科学を探究し,適切な判断力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	細胞,組織と器官(宇賀)	講義
	2	血液の組織と機能(宇賀)	講義
	3	呼吸器の構造と機能①(呼吸器の解剖,ガス交換)(西山)	講義
	4	呼吸器の構造と機能②(呼吸運動の調整など)(西山)	講義
	5	体液の調整と尿の生成①(腎臓,糸球体の構造と機能)(西山)	講義
	6	体液の調整と尿の生成②(排尿路の構造と機能)(西山)	講義
	7	体液の調整と尿の生成③(体液の調整)(西山)	講義
	8	内臓機能の調整①(自律神経および内分泌による調整)(宇賀)	講義
	9	内臓機能の調整②(内分泌腺と内分泌細胞)(宇賀)	講義
	10	内臓機能の調整③(ホルモン調整)(宇賀)	講義
	11	骨格と骨格筋の構造①(体幹)(西山)	講義
	12	骨格と骨格筋の構造②(上下肢)(西山)	講義
	13	骨格と骨格筋の構造③(頭頸部,筋の収縮)(西山)	講義
	14	生殖器の構造と機能,受精と胎児の発生(中野)(3時間授業)	講義
15	単位認定試験	試験	
成績評価の方法	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	准看護師課程で既習です。より深く学ぶ内容とするため,解剖・生理の概要については復習しておくといでしょう。		
テキスト	「ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 1 解剖生理学」 メディカ出版 「イメージできる解剖生理学」 メディカ出版		
参考文献	「生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖と生理第3版」 医学映像教育センター		

科目名	形態機能学Ⅱ	担当講師	*高橋 美智子
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	日常生活を営む正常な人体の生理機能を理解するために,①各臓器の解剖・生理, ②各臓器の機能低下がもたらす生体全体への影響について学ぶ。 本科目で消化器系,循環器系,脳神経系,感覚器系について学ぶ。		
到達目標	5. 臓器の解剖・生理を理解する。 6. 疾病により各臓器の機能低下がもたらす生体全体への影響が分かる。 3. バイタルサインの生理学について理解する。		
CP・DP との関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し, 科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ, 科学を探究し, 適切な判断力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	バイタルサインの生理学	講義
	2	栄養の消化と吸収①(上部消化管の構造と機能)	講義
	3	栄養の消化と吸収②(下部消化管の構造と機能)	講義
	4	栄養の消化と吸収③(膵臓, 肝臓, 胆のうの構造と機能)	講義
	5	血液の循環とその調節①(心臓, 末梢血管の構造と機能)	講義
	6	血液の循環とその調節②(血圧と心拍数の恒常性)	講義
	7	血液の循環とその調節③(心電図の見方, ショックの病態)	講義
	8	血液の循環とその調節④(まとめ)	講義
	9	情報の受容と処理①(神経細胞の機能と構造)	講義
	10	情報の受容と処理②(末梢神経と自律神経)	講義
	11	情報の受容と処理③(伝導路, 特殊感覚)	講義
	12	外部環境からの防御①(皮膚の構造と機能)	講義
	13	外部環境からの防御②(生体の防御機能)	講義
	14	外部環境からの防御③(体温とその調節)	講義
15	まとめ / 単位認定試験	講義・試験	
成績評価の方法	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	准看護師課程で既習です。より深く学ぶ内容とするため, 解剖・生理の概要については復習しておくといでしょう。予習より, 復習が大事です。講義終了後に, 再度, 資料や教科書を見直すといでしょう。また分からないことは, すぐに解決するように, 質問してください。		
テキスト	「ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 1 解剖生理学」 メディカ出版		
参考文献	「ネッター解剖学アトラス」 南江堂 「朝倉内科学」 朝倉書院 「看護形態機能学 第3版」 日本看護協会出版会 「生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖と生理第3版」 医学映像教育センター		

科目名	臨床生化学と栄養	担当講師	後藤信治 : 生化学 * 河辺千鶴子 : 栄養学	20 時間 10 時間
単位数 (時間数)	1 (30)	配当年次	1	
科目の概要	人間が生命活動を営むために必要な栄養素とその生体内での物質代謝について①生体を構成する物質の性状や代謝,②生命活動を支える栄養に関する基礎知識,③食事療法の基礎知識を学ぶ内容とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子の情報に基づいて起こる物質の変化を理解する。 2. 糖質・脂質・タンパク質の構造と相互作用および代謝について理解する。 3. エネルギーの産生とエネルギー代謝異常について理解する。 4. 栄養の適切な摂取と健康について理解する。 5. 栄養素と栄養価について理解する。 6. 生体におけるビタミン・ミネラルの役割を理解する。 7. 日本における食事摂取基準について理解する。 8. 栄養療法について理解する。 			
CP・DP との関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し, 科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ, 科学を探究し, 適切な判断力を身につけている。			
授業計画	回	学習内容		方法
	1	生化学:細胞の構造と細胞小器官の機能(概説)、原子と分子(後藤)		講義
	2	生化学:アミノ酸, 酸と塩基、水素イオン濃度とpH(後藤)		講義
	3	生化学:タンパク質の構造, 酵素の機能と特性, 酸化と還元(後藤)		講義
	4	生化学:糖質の種類と構造(後藤)		講義
	5	生化学:糖質の代謝(解糖系), TCA 回路、電子伝達系、糖新生(後藤)		講義
	6	生化学:脂質の種類と構造(後藤)		講義
	7	生化学:脂質の消化・吸収・代謝・合成(後藤)		講義
	8	生化学:タンパク質の代謝(アミノ酸の代謝、尿素の生成)(後藤)		講義
	9	生化学:核酸の構造、遺伝子、遺伝情報とタンパク質合成(後藤)		講義
	10	生化学:遺伝子の異常と疾患, ホルモン(後藤)		講義
	11	栄養:食物と栄養(河辺)		講義
	12	栄養:ビタミンとミネラル(河辺)		講義
	13	栄養:食事摂取基準(河辺)		講義
	14	栄養:乳幼児から老年期、妊娠期の生活と栄養(河辺)		講義
15	栄養:食事療法(糖尿病・腎臓病・経管栄養)(河辺)		講義	
成績評価の方法	単位認定試験:生化学試験(100%) + 栄養学試験(100%)			
履修上の アドバイス	単位認定は, 生化学試験, 栄養学試験により行う。2つの試験に合格することを単位認定の条件とする。各試験の受験資格は, 生化学, 栄養学の各々の時間数の 2/3 以上の出席とする。			
テキスト	「新体系 看護学全書 栄養生化学 人体の構造と機能 2」 メヂカルフレンド社 「イラストで学ぶ生化学」 医学書院			
参考文献	必要時提示します。			

科目名	疾病と治療論 I	担当講師	* 福島 喜代康 :呼吸器 14 時間 * 福田 浩敏 :消化器 12 時間 * 宮本 俊吾 :消化器(手術療法) 4 時間
単位数 (時間数)	1(30)	配当年次	1
科目の概要	呼吸器および消化器の疾病を持つ人々への個別的な看護を展開するために、様々な疾病がもたらす身体内部の変化(病態)や検査・治療を理解する内容とする。		
到達目標	1. 各臓器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状と病態生理について理解する。 3. 検査データと病態との関連性を理解できる。 4. 主な疾患の病態生理とその治療について理解する。		
CP・DP との関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探求し、適切な判断力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	呼吸器		
	1	呼吸器の構造と機能	講義
	2	呼吸器症状とその病態生理(自覚症状と他覚症状)	講義
	3	血液検査, 画像検査, 呼吸機能検査	講義
	4	治療・処置(吸入療法, 酸素療法, 人工呼吸療法)	講義
	5	疾患の理解①(感染症, 間質性肺疾患)	講義
	6	疾患の理解②(気道疾患, 肺血栓塞栓症, 呼吸不全など)	講義
	7	疾患の理解③(肺腫瘍)	講義
	消化器・手術療法		
	1	消化器:消化器の構造と機能	講義
	2	消化器:消化器症状・徴候とその病態生理	講義
	3	消化器:疾患の理解①(食道・胃十二指腸疾患, 腸疾患)	講義
	4	消化器:疾患の理解②(肝臓・胆嚢の疾患)	講義
	5	消化器:疾患の理解③(膵臓の疾患)	講義
	6	消化器:治療・処置①(薬物療法, 放射線療法)	講義
	7	消化器:治療・処置②(手術療法1)	講義
8	消化器:治療・処置③(手術療法2)	講義	
成績評価の 方法	単位認定試験:呼吸器試験(100%), 消化器試験(内科 80%, 手術療法 20%)		
履修上の アドバイス	単位認定は, 呼吸器試験, 消化器試験により行う。2つの試験に合格することを単位認定の条件とする。各試験の受験資格は,呼吸器,消化器の各々の時間数の 2/3 以上の出席とする。		
テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器」医学書院		
参考文献	「生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖と生理第3版」医学映像教育センター		

科目名	疾病と治療論Ⅱ	担当講師	*谷口 広明 : 血液造血器 *高原 晶 : 循環器 *満岡 渉 : 循環器	10 時間 16 時間 4 時間	
単位数 (時間数)	1 (30)	配当年次	1		
科目の概要	血液造血器および循環器の疾病を持つ人々への個別的な看護を展開するために、様々な疾病がもたらす身体内部の変化(病態)や検査・治療を理解する内容とする。				
到達目標	1. 各臓器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状と病態生理について理解する。 3. 検査データと病態との関連性を理解できる。 4. 主な疾患の病態生理とその治療について理解する。				
CP・DP との関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断力を身につけている。				
授業計画	回	学習内容		方法	
	血液造血器				
	1	血液の生理と造血のしくみ・検査・診断と症候		講義	
	2	血球の異常		講義	
	3	白血病の理解		講義	
	4	リンパ腫、骨髄腫の理解		講義	
	5	出血性疾患		講義	
	循環器				
	1	構造と機能、循環器の症状		講義	
	2	検査(心電図・胸部 X 線・心臓カテーテル法等)の理解		講義	
	3	不整脈		講義	
	4	血圧の異常		講義	
	5	虚血性心疾患		講義	
	6	心不全		講義	
7	先天性心疾患		講義		
8	心筋症他		講義		
9	薬物療法、心臓カテーテル治療、外科的治療法		講義		
10	単位認定試験		試験		
成績評価の方法	単位認定試験:血液造血器試験(100%),循環器試験(100%)				
履修上の アドバイス	単位認定は、血液造血器試験,循環器試験により行います。2つの試験に合格することを単位認定の条件とする。各試験の受験資格は、血液造血器,循環器の各々の時間数の2/3以上の出席とする。				
テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器」医学書院				
参考文献	「生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖と生理第3版」医学映像教育センター				

科目名	疾病と治療論Ⅲ	担当講師	*榎藤 雄一郎 *谷岡 浩二 *森 勝春 *河口 翔平 *宮本 力	: 脳神経 : 運動器	16 時間 14 時間
単位数 (時間数)	1(30)	配当年次	1		
科目の概要	脳神経および運動器の疾病を持つ人々への個別的な看護を展開するために、様々な疾病がもたらす身体内部の変化(病態)や検査・治療を理解する内容とする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各臓器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状と病態生理について理解する。 3. 検査データと病態との関連性を理解できる。 4. 主な疾患の病態生理とその治療について理解する。 				
CP・DP との関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断力を身につけている。				
授業計画	回	学習内容			方法
	脳神経: 榎藤 雄一郎, 谷岡 浩二, 森 勝春, 河口 翔平				
	1	神経の構造と機能(神経系の分類, 中枢神経, 末梢神経) [榎藤]			講義
	2	主な症状とその病態生理 [榎藤]			講義
	3	検査(神経学的診察, 補助的検査法) [榎藤]			講義
	4	治療・処置①(内科的治療法) [榎藤]			講義
	5	治療・処置②(内科的治療法) [榎藤]			講義
	6	脳神経領域の外科的治療法, 脳出血及び外傷 [谷岡]			講義
	7	脳腫瘍の外科的治療法 [森]			講義
	8	脳神経領域の理学療法 [河口]			講義
	運動器: 宮本 力				
	1	運動器の構造と機能			講義
	2	症状とその病態生理			講義
	3	画像検査, 保存療法, 手術療法と合併症			講義
	4	疾患の理解①骨折, 脱臼			講義
	5	疾患の理解②神経の損傷, 筋・腱・靭帯などの損傷			講義
	6	疾患の理解③先天性疾患, 骨・関節の炎症性疾患			講義
7	疾患の理解④骨腫瘍, 代謝性骨疾患			講義	
成績評価の方法	単位認定試験: 脳神経試験(100%), 運動器試験(100%)				
履修上の アドバイス	単位認定は、脳神経試験・運動器試験により行います。2 つの試験に合格することを単位認定の条件とします。各試験の受験資格は、脳神経・運動器の各々の時間数の 2/3 以上の出席としますので、注意しましょう。				
テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器」 医学書院				
参考文献	「生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖と生理第3版」 医学映像教育センター				

科目名	疾病と治療論Ⅳ	担当講師	*犬塚 周 : 腎・泌尿器 14 時間 *小無田 明美 : 女性生殖器 8 時間 *宇賀 達也 : 乳腺 2 時間 *坪井 雅彦 : 自己免疫 6 時間	
単位数 (時間数)	1(30)	配当年次	1	
科目の概要	腎・泌尿器,女性生殖器(乳腺含む),自己免疫に関する疾病を持つ人々への個別的な看護を展開するために,様々な疾病がもたらす身体内部の変化(病態)や検査・治療を理解する内容とする。			
到達目標	1. 各臓器の構造と機能について理解する。 2. 主な症状と病態生理について理解する。 3. 検査データと病態との関連性を理解できる。 4. 主な疾患の病態生理とその治療について理解する。			
CP・DP との関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し,科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ,科学を探究し,適切な判断力を身につけている。			
授業計画	回	学習内容	方法	
	腎・泌尿器			
	1	腎・泌尿器の構造と機能	講義	
	2	急性腎不全,慢性腎不全	講義	
	3	検査と治療(腎機能検査,透析療法,腎移植)	講義	
	4	疾患の理解①(急性腎不全,慢性腎不全)	講義	
	5	疾患の理解②(腎炎,性感染症,尿路結石)	講義	
	6	疾患の理解③(前立腺肥大症,尿失禁)	講義	
	7	疾患の理解④(尿路悪性腫瘍)	講義	
	女性生殖器			
	1	女性生殖器の構造と機能	講義	
	2	疾患,検査,治療①(外陰・膣の疾患)	講義	
	3	疾患,検査,治療②(子宮,卵管,卵巣の疾患)	講義	
	4	疾患,検査,治療③(機能性疾患,感染症)	講義	
	乳腺			
	1	乳がんと手術療法	講義	
	自己免疫			
	1	アレルギー免疫疾患と治療	講義	
	2	膠原病と治療①(自己免疫疾患,関節リウマチほか)	講義	
3	膠原病と治療②(全身性エリテマトーデスほか)	講義		
成績評価の方法	単位認定試験:腎・泌尿器試験(100%),女性生殖器試験(乳腺除く100%)自己免疫試験(100%) 乳腺試験(レポート提出)			
履修上の アドバイス	単位認定は,腎・泌尿器試験・女性生殖器試験・自己免疫試験により行う。3つの試験に合格することを単位認定の条件とする。各試験の受験資格は,腎・泌尿器・女性生殖器(乳腺含む)・自己免疫の各々の時間数の2/3以上の出席とする。			
テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器」医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー/膠原病/感染症」医学書院			
参考文献	「生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖と生理第3版」医学映像教育センター			

科目名	薬理学	担当講師	*池田 理恵
単位数 (時間数)	1(30) テスト含む	配当年次	1
科目の概要	薬剤に関する基礎的知識を学んだ上で、薬剤が人体に作用する仕組みを理解し、薬物療法を受ける対象の看護に活かせる内容とする。また、薬物の特性・作用機序・人体への影響および薬物の管理についても学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法が人体に及ぼす影響を理解する。 2. 主な疾患の治療薬の作用・副作用について理解する。 3. 主な外用薬の種類とその特徴について理解する。 4. 救急蘇生時に用いられる主な薬剤の種類とその特徴について理解する。 5. 主な輸液剤と輸血の種類とその作用について理解する。 		
CP・DP との関連	<p>CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。</p> <p>DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断力を身につけている。</p>		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	薬理学総論①(作用・副作用の機序)	講義
	2	薬理学総論②(吸収と代謝)	講義
	3	抗感染症薬	講義
	4	抗がん薬, 免疫治療薬	講義
	5	抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義
	6	末梢での神経活動に作用する薬物	講義
	7	中枢神経に作用する薬物①	講義
	8	中枢神経に作用する薬物②	講義
	9	心臓・血管系に作用する薬物①	講義
	10	心臓・血管系に作用する薬物②	講義
	11	呼吸・消化器・生殖器系に作用する薬物	講義
	12	物質代謝に作用する薬物	講義
	13	皮膚科用薬・眼科用薬, 救急の際に使用される薬物	講義
	14	漢方薬, 消毒薬	講義
15	輸液・輸血 / 単位認定試験	講義・試験	
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	講義終了後に小テストが配信されます。復習に活用してください。		
テキスト	「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進[3]」 医学書院		
参考文献	必要時,提示します。		

科目名	微生物学	担当講師	*森内 良三
単位数 (時間数)	1(30)	配当年次	1
科目の概要	本科目では主に人に病気を起こす病原微生物について学ぶ。微生物のライフサイクルと病気を起こすメカニズム,ならびに生体の防御反応を理解することによって,医療現場で適切な看護ができるように学んでいく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細菌,真菌,原虫,ウイルスの性質について理解する。 2. 感染症と免疫の相互作用について理解する。 3. 社会的に重大な問題となっている感染症について理解する。 4. 院内感染につながる主な感染症とその経路について理解する。 		
CP・DP との関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し,科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	微生物と微生物学, 細菌の性質①	講義
	2	細菌の性質②	講義
	3	真菌, 原虫, ウイルスの性質	講義
	4	感染と感染症①	講義
	5	感染と感染症②, 自然免疫	講義
	6	獲得免疫	講義
	7	感染源・感染経路からみた感染症, 検査と診断	講義
	8	感染症の現状と対策, 治療	講義
	9	細菌感染症①	講義
	10	細菌感染症②	講義
	11	細菌感染症③	講義
	12	細菌感染症④	講義
	13	ウイルス感染症	講義
	14	真菌感染症	講義
15	寄生虫感染症	講義	
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	感染症発生の動向に興味関心を持ちながら,授業に参加しましょう。		
テキスト	「病気がみえる vol. 6 免疫・膠原病・感染症」 メディックメディア		
参考文献	随時,紹介します。		

科目名	保健医療論	担当講師	*宮本峻光 : 9時間 *徳永陽子 : 6時間	
単位数 (時間数)	1(15)	配当年次	1	
科目の概要	生活者が健康な生活を確保するために、医療が果たす役割と医療における倫理と現在の課題について学ぶ。医療サービスを理解するとともに、医療・保健・福祉の相互の連携や協働について理解を深める。			
到達目標	1. 生活環境が健康に与える影響を知り、健康づくりの基本と健康づくり対策について理解する。 2. 医療サービスの推進・確保のための方策について理解する。 3. 現代医療における医療倫理,患者の権利について理解する。 4. 脳死の判定基準と臓器移植のあり方,法的・倫理的問題点を知る。 5. 看護を取り巻く現代の諸問題を理解する。			
CP・DPとの関連	CP3. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎的能力を養う。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断力を身につけている。 DP5. 看護師としての使命感を持ち、時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。			
授業計画	回	学習内容	方法	
	1	健康と疾病 (宮本峻光)	講義	
	2	我が国の医療供給体制 (宮本峻光)	講義	
	3	医療の進歩と医の倫理 (宮本峻光) 3時間授業	} いずれか	講義
	4	医療における患者の権利 (宮本峻光)		講義
	5	現代医療の諸問題 (徳永陽子)	講義	
	6	医療・看護における倫理的課題① (徳永陽子)	講義	
	7	医療・看護における倫理的課題② (徳永陽子)	講義	
成績評価の方法	単位認定試験 (医師 60% 看護師 40%)			
履修上のアドバイス	保健医療福祉の連携を考える上でも大切な科目です。健康を考え、医療や看護の役割についても問題意識を持ちながら参加しましょう。			
テキスト	「新体系看護学全書 専門基礎分野 現代医療論 健康支援と社会保障制度 1」 メヂカルフレンド社			
参考文献	必要時,資料を配布します。			

専門分野

基礎看護学

科目名	看護学概論	担当講師	* 圓能寺貞子 : 10 時間 * 田中伸子(テスト含む) : 20 時間
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	看護の概念を理解し、対象となる人間及びその生活をとらえることで、人々の健康保持増進に努める看護の目的・役割について理解する。		
到達目標	1. 看護の職業としての歴史やキャリア開発、看護をめぐる制度やサービスとしての看護について学び、看護の役割と機能について理解できる。 2. 看護実践とクリティカルシンキング・看護研究・看護理論の関連について理解できる。 3. 松木光子の生活統合体モデルと 10 の生活行動様式について説明できる。 4. 看護職者としての倫理的態度を養うことができる。 5. 社会の変化に伴う看護の役割拡大について理解できる。 6. 自分の考えを自分の言葉で述べる事、他者へ伝えることの重要性を理解できる。		
CP・DP との関連	CP3. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎的能力を養う。 CP7. 看護について探求心を持ち、継続して学ぶ姿勢を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断力を身につけている。 DP3 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	看護とは① 看護の定義、役割と機能	講義
	2	看護とは② 看護の変遷 -職業としての看護-	講義
	3	看護とは③ 看護職の養成制度と就業状況	講義
	4	看護とは④ 看護サービスの管理	講義
	5	看護とは⑤ 看護をめぐる制度と政策	講義
	6	看護実践の基盤① 看護実践における技術	講義
	7	看護実践の基盤② 看護実践とクリティカルシンキング	演習
	8	看護実践の基盤③ 実践と理論と研究	講義・演習
	9	看護実践の基盤④ チーム医療と看護、医療安全	講義
	10	看護の対象と目的	講義
	11	看護における倫理① 医療をめぐる倫理の歴史	講義・演習
	12	看護における倫理② 看護倫理の原則	講義・演習
	13	看護における倫理③ 看護実践と倫理的問題	講義・演習
	14	広がる看護の活動領域	講義・演習
15	単位認定試験	試験	
成績評価	単位認定試験(70%)、授業態度・レポート(30%)		
履修上の アドバイス	講義終了後授業カードの提出を求めます。授業の内容から自分の考えを自分の言葉で述べる訓練をしていきましょう。参加型の授業では、協同学習のスキルを身につけていきましょう。		
テキスト	「系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論」 医学書院		
参考文献	菱沼典子著「看護形態機能学」日本看護協会出版会 松木光子編集「ケーススタディ看護過程」医学書院		

科目名	共通基本技術	担当講師	*山口真由美 : 42時間 *竹村 恵 : 3時間
単位数 (時間数)	1(45)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	すべての看護に共通する感染予防対策,看護過程,フィジカルアセスメントの方法について学ぶ。フィジカルアセスメントの概念を理解し,科学的根拠に基づいて状況を判断できる知識・技術・態度について理解するとともに,各看護学に共通する看護技術を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の考え方が理解できる。 2. 感染および感染の要因を理解し,その防御のための基礎知識と方法を理解できる。 3. 看護過程の定義や展開方法などの基本的な考え方が理解できる。 4. フィジカルアセスメントの概念を理解し,フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データについて理解できる。 5. 看護における患者教育,健康教育の基本的な考え方が理解できる。 6. フィジカルイグザミネーションを実施して,アセスメントができる。 		
CP・DPとの関連	CP4.健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し,科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP3. 対象の状態に応じた,確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	感染防止の技術①:感染予防の基礎知識	講義
	2・3	感染防止の技術②:感染予防の実際(竹村)	講義・実技
	4	看護過程①:看護過程とは 対象理解に必要な情報収集	講義・演習
	5	看護過程②:アセスメント	講義・演習
	6	看護過程③:アセスメント	講義・演習
	7	看護過程④:問題リスト	講義・演習
	8	看護過程⑤看護計画	講義・演習
	9~11	学習支援	演習・実技
	12	フィジカルアセスメントの目的とフィジカルイグザミネーションの基本技術	講義・実技
	13	呼吸器系と循環器系のフィジカルアセスメント	講義
	14	消化器系と意識レベルのフィジカルアセスメント	講義
	15	感覚器と中枢神経系のフィジカルアセスメント	講義
	16	運動器系のフィジカルアセスメント	講義
	17	フィジカルアセスメント演習①呼吸器・循環器・消化器系・意識レベル	実技
	18	フィジカルアセスメント演習②感覚器,中枢神経系,運動器	実技
19・20	フィジカルアセスメント演習③事例を用いて	演習・実技	
21・22	フィジカルアセスメント演習④事例を用いて	演習・実技	
23	単位認定試験	試験	
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	本科目は,准看護師課程で学んだ「基礎看護技術」を土台として,学びを深めていきます。全授業を通して,既習の知識を活用していくため,復習しながら参加することが必要です。また,技術の習得を目指すため主体的な学習姿勢を持ち取り組みましょう。		
テキスト	「系統学看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」 医学書院 「系統学看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」 医学書院 「看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント」 メディックメディア		
参考文献	随時紹介します。		

科目名	日常生活援助技術	担当講師	* 西山美奈子
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	日常生活援助技術は、対象の「生活の質」を維持し、その人らしく生きるために欠かせない技術であり、人間らしい生を支える技術ともいえる。対象の生活状況を判断し、対象の状態に応じた援助の選択方法と安全・安楽に考慮した技術を身につけることをねらいとする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活援助技術の意義を理解する。 2. 人間にとっての日常生活行動の意味と生活を整える意義を理解する。 3. 生活状況を把握し判断するための観察の視点と対象に応じた援助の選択方法を身につける。 4. 対象に応じた援助を安全・安楽に考慮しながら、配慮ある看護技術の提供ができる。 		
CP・DPとの関連	<p>CP4.健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。</p> <p>DP3. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。</p>		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	日常生活援助技術とは 看護技術の選択とアセスメント	講義
	2	事例患者の食事の援助	講義
	3	事例患者の排泄援助	講義
	4	事例患者の活動・休息援助、環境を整える援助	講義
	5	日常生活援助技術の実践①経管栄養法、おむつ交換、導尿、浣腸、摘便、ストーマ管理、安全な療養環境の整備	実技
	6	日常生活援助技術の実践②経管栄養法、おむつ交換、導尿、浣腸、摘便、ストーマ管理、安全な療養環境の整備	実技
	7	ボディメカニクス	講義・実技
	8	重症度の高い患者の全身清拭・寝衣交換実技:事例検討①	講義
	9	重症度の高い患者の全身清拭・寝衣交換実技:事例検討②	演習・実技
	10	重症度の高い患者の全身清拭・寝衣交換実技:事例検討③	演習・実技
	11	重症度の高い患者の全身清拭・寝衣交換実技:発表①	実技
	12	重症度の高い患者の全身清拭・寝衣交換実技:発表②	実技
	13	重症度の高い患者の全身清拭・寝衣交換実技:確認①	実技
	14	重症度の高い患者の全身清拭・寝衣交換実技:確認②	実技
15	単位認定試験	試験	
成績評価の方法	単位認定試験(100%)		
履修上のアドバイス	<p>本科目は、准看護師課程で学んだ「基礎看護技術」を土台として、学びを深めていきます。全授業を通して、既習の知識を活用していくため、復習しながら参加することが必要です。また、技術の習得を目指すため主体的な学習姿勢を持ち取り組みましょう。既習の知識や体験を活用しながら、学習していきます。演習を多く取り入れた参加型の授業形態をとるため、事前学習や課題に対して積極的に取り組み、参加するとよいでしょう。</p>		
テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」医学書院		
参考文献	「NEW生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖と生理第3版」医学映像教育センター		

科目名	診療補助技術	担当講師	*平 晴奈 38時間 *大平 英輝 4時間 *花田 星児 3時間
単位数 (時間数)	1(45)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	現代の医療は刻々と変化し、検査や治療方法も高度化している。正しく検査が行われ、治療効果が発揮されることは対象者の健康回復・安寧のために重要である。また身体侵襲に伴う苦痛を最小限にし、安全・安楽な技術の提供も必要である。本科目は診療に伴う援助技術の原理・原則を理解し、対象に適切な援助を提供するための基本的方法を学ぶことをねらいとする。		
到達目標	1. 診療補助技術の意義と看護の役割を理解する。 2. 安全で確実な診療補助技術を実践できるための知識と技術を習得できる。 3. 診療を受ける対象の思いを理解し、対象に配慮した行動がとれる。 4. 看護技術の習得に向けて主体的な学習姿勢で取り組むことができる。		
CP・DPとの関連	CP4.健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP3. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	薬物療法における看護の役割(平)	講義
	2	点滴静脈内注射①:事例検討(平)	実技
	3~5	点滴静脈内注射②(平)	講義・演習
	6~9	点滴静脈内注射③:技術確認(平)	実技
	10・11	診療補助技術の実践④⑤ 注射・採血、薬剤暴露予防・針刺し後対応(平)	実技
	12	検査と看護(平)	講義
	13	創傷管理(平)	講義
	14	呼吸を整える技術(平)	講義
	15・16	ME機器の理解(大平)	講義・実技
	17	診療補助技術の実践① 経口薬、経皮外用薬・坐薬、毒薬・劇薬麻薬血液製剤等の薬剤管理、輸血管理 被曝予防(平)	実技
	18	診療補助技術の実践② 経口薬、経皮外用薬・坐薬、毒薬・劇薬麻薬血液製剤等の薬剤管理、輸血管理 被曝予防(平)	実技
	19	診療補助技術の実践③ 排痰法(花田) 3H	実技
	20	診療補助技術の実践④ 口・鼻・気管内吸引、体位ドレナージ、創傷処置ドレーン挿入部の処置、O ₂ ボンベ、心電図(平)	実技
21	診療補助技術の実践⑤ 口・鼻・気管内吸引、体位ドレナージ、創傷処置ドレーン挿入部の処置 O ₂ ボンベ、心電図 まとめ(平)	実技	
22	単位認定試験	試験	
成績評価の方法	単位認定試験(筆記試験 100%)		
履修上のアドバイス	本科目は、准看護師課程で学んだ「基礎看護技術」を土台として、学びを深めていきます。全授業を通して、既習の知識を活用していくため、復習しながら参加することが必要です。また、技術の習得を目指すため主体的な学習姿勢を持ち取り組みましょう。演習を多く取り入れた参加型の授業形態をとるため、事前学習や課題に対して積極的に取り組み、参加するとよいでしょう。		
テキスト	「系統学看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3」医学書院		
参考文献	随時紹介します。		

地域・在宅看護論

科目名	地域で暮らす人と健康	担当講師	佐藤 快信: 10 時間 * 田中 伸子: 14 時間 * 中村 伊織 : 6 時間
単位数 (時間数)	1(30)	配当年次	1
科目の概要	本科目は地域で暮らす人々の生活に学生が実際に参加し、地域が個人や家族の健康な生活にどのように関わっているかを理解することをめざしている。参加観察した地域の暮らしを自助、互助、共助、公助の視点をもって再構成し、自治体や各種団体、患者会、隣人や家族などが健康な生活の実現に向けて支援し、助け合っていることを理解する。健康な暮らしに向けての課題を見出し、それを共有する力を身につける。		
到達目標	フィールドワークや地区踏査を通し、実践例等を基に、地域を自助・互助・共助・公助の視点から再構成して考察し、地域組織づくりや地域包括ケアシステム構築・維持のための課題に気づく。 目標1 暮らしを理解すると共に、暮らしが健康に与える影響を理解する。 目標2 地域や暮らしを、「健康を守る」という視点で観察する。 目標3 自助・互助・共助・公助の視点から地域を考察する。		
CP・DPとの関連	CP6.保健医療福祉における看護の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら問題解決できる実践能力を養う。 DP3.主体性をもちながら、他へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。 DP6.変化を恐れず、新しい問題へ対応するために創意工夫できる力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	学習ガイダンス / フィールドワークの学び方 (佐藤)	講義
	2	地域の理解① 地域・社会とはなにか (佐藤)	講義
	3	地域の理解② 日本の地域社会の特徴 (佐藤)	講義
	4	パーソナルネットワークと相互依存① 暮らすということ (佐藤)	講義
	5	パーソナルネットワークと相互依存② 支えあって生きるとは (佐藤)	講義
	6	地域の生活環境が健康に与える影響(文化的・社会的環境・自然環境) ①地域に暮らす人々が健康を維持しながら生活するために、どのような人々がどのような目的と方法で活動しているか観察する。 ②地域に暮らす人々が健康に生活するための課題に気づく。	フィールドワーク
	7		
	8		
	9		
	10		
	11	自助・互助・共助・公助 ①フィールドワークや地区踏査を通して学んだことを基に、地域を自助・互助・共助・公助の点から再構成し、考察する。 ②実践例を基に、地域組織づくりや地域包括ケアシステムの構築に必要な課題を見出す。	演習
	12		
	13		
	14	学習成果発表会	
15			
成績評価の方法	学習成果発表およびレポートで評価します。		
履修上のアドバイス	普遍化された理論を学ぶだけではなく、観察することを出発点として帰納法的なアプローチで学びます。現地に赴き、地区のことを細かく調べることで地域の理解を深めます。疑問を持ち主体的に行動することで学習の質向上が期待できます。		
テキスト	「系統看護学講座 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤」 医学書院 「系統看護学講座 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践」 医学書院		
参考文献	随時紹介します。		

科目名	地域・在宅看護概論	担当講師	*吉田 知之： 6時間 *隈上 貴子： 24時間
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	本科目は地域看護の概念を理解し、在宅看護の歴史や在宅看護が必要とされる社会的な背景を踏まえ、地域看護および在宅看護の概念と対象者や活動の場、活動方法の特徴、地域・在宅看護を取り巻く保健医療福祉資源とそのシステムについて学習する。個人と家族を対象とした地域・在宅看護の意義と目的を理解し、家族構成員の様々な健康レベルによるヘルスニーズと家族の問題によって発生する看護上の問題を理解する。		
到達目標	地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する。 目標1. 地域看護及び在宅看護の歴史を知り、地域・在宅看護が必要とされる社会的背景が理解できる。 目標2. 地域・在宅看護の対象（個人と家族）の生活を知り、支援の必要性を理解できる。 目標3. 対象者の生活を支える多職種協働・連携の必要性が理解できる。 目標4. 地域・在宅看護に必要な法と制度と社会資源が理解できる。		
CP・DPとの関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 CP6.保健医療福祉における看護の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら問題解決できる実践能力を養う。		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	地域・在宅看護の背景	講義・演習
	2	地域・在宅看護の基盤 地域療養を支える在宅看護の役割・機能	講義・演習
	3	地域・在宅看護を展開するための基本理念と倫理	講義・演習
	4	地域・在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件	講義・演習
	5	在宅療養の場における家族のとらえ方と家族への看護	講義・演習
	6	地域包括ケアシステムの中の医療の位置づけ (吉田)	講義・演習
	7	多職種連携と医療 (吉田)	講義・演習
	8	在宅医療と看取り (吉田)	講義・演習
	9	地域包括ケアシステムの中の看護の役割	講義・演習
	10	多職種連携のための看護の役割	講義・演習
	11	社会資源の活用 医療保険制度	講義・演習
	12	社会資源の活用 介護保険制度	講義・演習
	13	障害者に関する法律	講義・演習
	14	難病法 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源	講義・演習
15	単位認定試験	筆記試験	
成績評価の方法	単位認定試験 100% (隈上 80% 吉田 20%)		
履修上のアドバイス	専門用語や定義の理解をしておきましょう。事前学習課題を出すことがあります。提出期限を厳守しましょう。看護が提供される多様な場の単元では、看護が提供されている施設の法的根拠や位置づけを学ぶと共に、実際に働いている看護職を招待し、看護の魅力や現状と課題についてお話をさせていただきます。		
テキスト	「系統看護学講座 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤」 医学書院 「系統看護学講座 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践」 医学書院		
参考文献	随時、紹介します。		

成人看護学

科目名	成人看護学総論	担当講師	*吉野 千春
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	成人期にある人の健康の保持・増進および健康障害時の健康レベルに応じた看護について学ぶ。成人の生活と健康に関する理解を基盤とし、多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチを学ぶ。社会的基盤をおく成人期の全体像を理解する。また、ライフサイクルの中で最も長い成人期にある人々の身体的・心理的・社会的な特徴および発達課題からみた特徴について学ぶ。多様な要因により発生する健康問題の特徴を生活環境・習慣と関連付けて学習する。障害を持つ対象や家族の心理面に対する援助、緩和、ターミナルケアの看護、周手術期看護を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルの中で最も長い成人期にある人々の身体的・心理的・社会的な特徴および発達課題からみた特徴を理解する。 2. 多様な要因により発生する健康問題の特徴を生活環境・習慣と関連付けて学習する。 3. 成人の生活習慣と生活習慣病との関連についてアセスメントできる。 4. ヘルスプロモーションと看護について学ぶ。 5. 障害をもつ対象とその家族の心理的側面を理解することができる。 6. 緩和・ターミナルケア看護について学ぶ。 7. 周手術期における看護を理解することができる。 		
CP・DPとの関連	CP3. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断を身につける。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	成人と生活:成人期における対象の特徴	講義・演習
	2	成人各期における発達段階の特徴、成人期に特徴的な健康障害と予防	講義・演習
	3	成人を取り巻く環境と生活からみた健康	講義・演習
	4	大人の健康行動のとらえ方、行動変容を促進する看護アプローチ	講義・演習
	5	生活ストレスに関する健康障害とその予防	講義・演習
	6	成人の健康状況、成人保健の動向と対策	講義・演習
	7	生活と健康を守りはぐくむシステム、保健・医療・福祉システム、家族支援	講義・演習
	8	ヘルスプロモーションと看護、定期健康診断(特定健康診査)	講義・演習
	9	生活習慣病とその予防、慢性病との共存を支える看護	講義・演習
	10	障害がある人の生活と社会復帰への看護	講義・演習
	11	人生の最後のときを支える人看護、緩和ケア	講義・演習
	12	生命の危機的状況にある対象の看護、危機モデル	講義・演習
	13	周手術期にある人の特徴と看護	講義・演習
	14	術後の看護、アセスメント	講義・演習
15	単位認定試験	筆記試験	
成績評価の方法	単位認定試験(90%) レポート課題(10%)		
履修上のアドバイス	既習の知識や体験を活用しながら、学習していきます。演習を多く取り入れた参加型の授業形態をとるため、積極的に取り組み、参加するとよいでしょう。		
テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論」 医学書院 「成人看護学 周手術期看護論」 ヌーヴェルヒロカワ 「ナーシンググラフィカ 成人看護学6 リハビリテーション看護」 メディカ出版		
参考文献	ナーシンググラフィカ 成人看護学7 緩和ケア メディカ出版 国民衛生の動向 厚生統計協会		

科目名	成人臨床看護の実際 I	担当講師	*松川 絵理 : 循環器障害 8時間 *大家 晴香 : 消化・吸収障害 8時間 *宮本 望 : 血液・造血器障害 6時間 *松村圭一郎 : 呼吸器障害 8時間	
単位数 (時間数)	1 (30)	配当年次	1	
科目の概要	循環機能, 消化・吸収機能, 呼吸機能, 血液・造血機能障害をもつ対象への看護を理解する。			
到達目標	1. 循環機能障害を持つ患者の看護について理解できる。 2. 消化・吸収障害を持つ患者の看護について理解できる。 3. 呼吸機能障害を持つ患者の看護について理解できる。 4. 血液・造血機能障害を持つ患者の看護について理解できる。			
CP・DP との関連	CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し, 科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ, 科学を探究し, 適切な判断を身につける。 DP4. 対象の状態に応じた, 確かな看護技術力を身につけている。			
授業計画	回数	学習内容		方法
	循環機能障害(松川 絵理)			
	1	循環不全症状に対する看護(胸痛, 動悸, 浮腫, 呼吸困難, チアノーゼ他)		講義
	2	検査を受ける患者の看護(心血管造影, 心電図, 血行動態モニタリング他)		講義
	3	治療・処置を受ける患者の看護(薬物療法, 心臓カテーテル治療, ペースメーカー)		講義
	4	疾患を持つ患者の看護(心不全, 虚血性心疾患, 不整脈, 下肢動脈閉塞)		講義
	消化・吸収障害(大家 晴香)			
	1	消化器症状に対する看護(嚥下困難, 腹痛, 下痢・便秘, 黄疸他)		講義
	2	検査を受ける患者の看護(内視鏡検査, 消化管造影検査, ERCP)		講義
	3	周手術期看護(イレウス, 食道切除, 大腸切除, ドレナージ管理)		講義
	4	人工肛門造設術の看護, 潰瘍性大腸炎・クローン病患者の生活指導, 肝炎, 膵炎, 胆のう炎患者の看護		講義
	血液造血器障害(宮本 望)			
	1	白血病・悪性リンパ腫患者の看護		講義
	2	輸血療法, 化学療法を受ける患者の看護		講義
	3	造血幹細胞移植を受ける患者の看護		講義
	呼吸機能障害 (松村 圭一郎)			
	1	呼吸器症状と看護, 検査を受ける患者の看護(気管支鏡検査, 胸腔穿刺, 呼吸機能検査, 血液動脈血ガス)		講義
	2	治療・処置を受ける患者の看護(人工呼吸器, 気管切開, 酸素療法)		講義
	3	慢性閉塞性肺疾患, 肺炎, 気管支喘息患者の看護		講義
	4	肺癌患者の看護, 胸腔ドレナージ, 手術療法を受ける患者の看護		講義
成績評価の方法	単位認定試験:循環機能障害+消化・吸収障害 100%(循環器 50% 消化・吸収 50%配点) 呼吸器障害+血液造血器障害 100%(呼吸器 60% 血液造血器 40%配点)			
履修上の アドバイス	単位認定は, 循環機能障害+消化・吸収障害, 呼吸器障害+血液造血器障害の各試験により行います。2 つの試験に合格することを単位認定の条件とします。各試験の受験資格は, 各々試験組み合わせ時間数の 2/3 以上の出席としますので, 注意しましょう。			
テキスト	【循環器】—「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器」 医学書院 【消化器】—「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器」 医学書院 【血液】—「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器」 医学書院 【呼吸器】—「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器」 医学書院			
参考文献	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 1 解剖生理学 メディカ出版 看護形態機能学 第3版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版			

老年看護学

科目名	老年看護学概論	担当講師	* 中村加代子
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	本科目はライフサイクルの最終段階にある老年期にある人々を正しく理解し、高齢者がその人らしく自立した生活を送れるよう、老年看護の概念を理解し、老年期にある対象の特徴と高齢者を取り巻く社会の現状から老年看護の機能と役割について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護の概念及び看護の役割を理解する。 2. 加齢による身体的・心理的・社会的変化の特徴およびそれに伴う健康問題を理解する。 3. 高齢者の健康に影響を与える要因および高齢者にとっての健康について理解する。 4. 高齢社会の現状と高齢者に対する保健・医療・福祉対策の現状と動向を理解する。 		
CP・DPとの関連	<p>CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的な根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。</p> <p>DP2 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断力を身につけている。</p>		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	老年看護学の理念①	講義
	2	老年看護学の理念②	講義・演習
	3	高齢社会と社会保障①	講義
	4	高齢社会と社会保障②	講義
	5	高齢者の権利擁護	講義・演習
	6	高齢者社会における保健医療福祉の動向	講義
	7	高齢者のヘルスアセスメント①	講義
	8	高齢者のヘルスアセスメント②	講義・演習
	9	身体の高齢変化とアセスメント①	講義・演習
	10	身体の高齢変化とアセスメント②	講義・演習
	11	身体の高齢変化とアセスメント③	講義・演習
	12	高齢者の現状と目指す社会の方向性	講義
	13	地域における高齢者の社会参加	講義
	14	老年看護学の課題と展望	講義
15	単位認定試験		
成績評価の方法	単位認定試験(100%)		
履修上のアドバイス	受け身的な講義だけでなく演習を多く取り入れた授業形態をとります。積極的に参加しましょう。		
テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」 医学書院 「老年看護学 概論と看護の実践」 スーヴェルヒロカリ 国民衛生の動向 厚生統計協会 (2023/2024 年度版)		
参考文献	随時紹介します。		

精神看護学

科目名	精神看護学概論	担当講師	*山口 奈津子
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	精神看護の基本理念をもとに、ライフサイクル各期に起こる様々な心の問題を捉え、精神の健康保持に必要な看護について学ぶ。また、精神医療看護の歴史を学び、精神障害者が抱える社会的問題と法律および様々な制度における人権擁護の重要性を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会で生活する人々のこころの健康について理解することができる。 2. こころの健康と健康問題を理解する。 3. 対処行動・防衛機制・危機的状況と危機介入について理解することができる。 4. こころの健康問題をもつ患者および家族に対して必要な看護を行うための基礎的知識や看護技術を習得することができる。 5. 精神医療の歴史を踏まえ、人権を尊重し、自己の倫理観を養うことができる。 		
CP・DPとの関連	CP3. 専門職業人としての倫理に基づいた看護が実践できるための基礎的能力を養う。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	心の健康とは	講義
	2	ストレスと対処行動(コーピング)①	講義・演習
	3	ストレスと対処行動(コーピング)②	演習
	4	危機介入とストレス理論	講義
	5	人間の心の働きとパーソナリティ	講義
	6	発達段階と精神の健康	講義
	7	精神医療看護の歴史と人権	講義・演習
	8	精神障害者の人権について	講義・演習
	9	精神障害者のとらえ方と倫理	講義・演習
	10	生活の場と精神保健	講義
	11	生活を支える制度と法	講義
	12	地域で精神障害者を支援するための方法①	講義
	13	地域で精神障害者を支援するための方法②	演習
	14	地域で精神障害者を支援するための方法③	プレゼンテーション
15	単位認定試験	筆記試験	
成績評価の方法	単位認定試験(100%)		
履修上のアドバイス	身近な問題として精神の健康状態の理解に関心を持ち講義を受けるようにしましょう。精神看護に必要な法律や制度について調べ、グループワークでは自己の倫理観が養われるように積極的に参加しましょう。		
テキスト	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎」 医学書院 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開」 医学書院		
参考文献	精神看護学Ⅰ 精神保健学 スーベルヒロカワ 情緒発達と看護の基本 メディカ出版 精神看護学ノート 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会		